

PROPOSAL | AI AGENT DEVELOPMENT

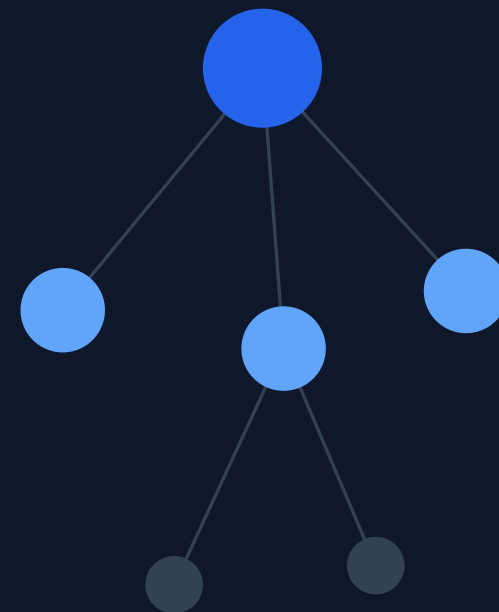
資料ダウンロードいただきましたお客様 御中

AIエージェント開発・導入ご提案書

「AI社員」の組織的配置から、高工数業務のピンポイント自動化まで

2026年10月

株式会社CS Technologies



※数値はモデルケースによる試算です。前提条件はP.9をご参照ください。

00 目次

01

背景と導入意義

人手不足とAIエージェントの台頭

02

エグゼクティブサマリー

提案の要約と効果試算

03

導入のアプローチ

ピンポイント自動化／AI社員の配置

04

先進活用事例

CS Technologies「AI社員組織図」

05

セキュリティ&ガバナンス

安全な活用を担保する4層の設計

06

導入・開発ステップ

契約までの流れ・お見積り

07

まとめ・次のアクション

本提案の要点と今後の進め方

01 人手不足は、これからさらに深刻になります

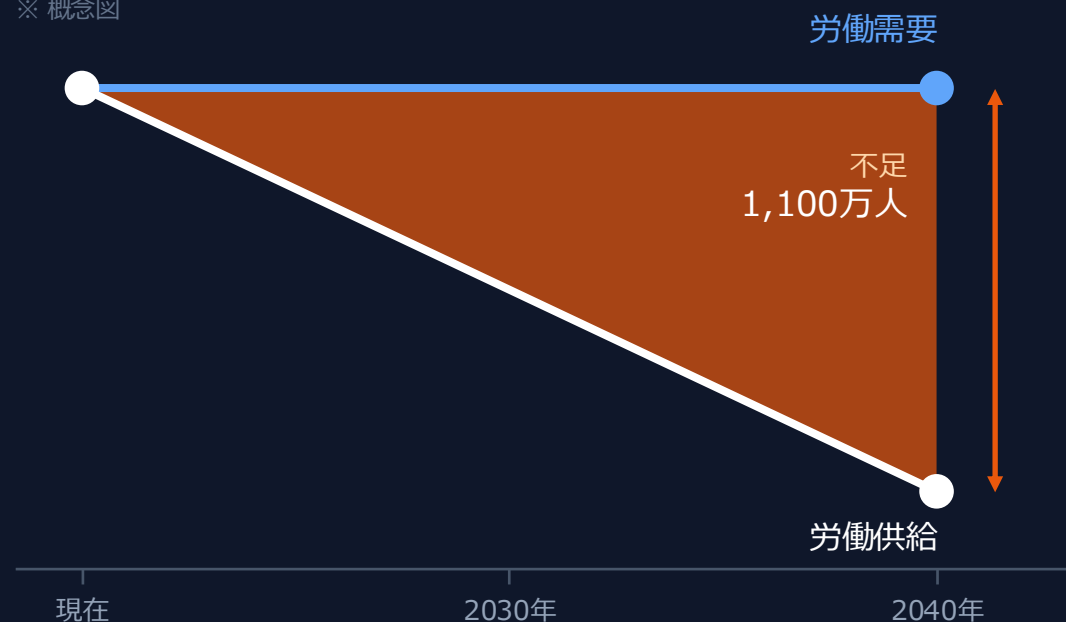
「人を増やして業務量に対応する」という前提が、多くの企業で成り立たなくなりつつあります。

2040年に不足する働き手

1,100万人

少子高齢化で労働供給が需要に追いつかず、物流・介護・建設・接客など、あらゆる現場で「人がいないこと」が事業の制約になると予測されています。

※ 概念図



01 採用だけでは埋まらない

働き手そのものが減り、採用費をかけても必要な人数を確保しにくくなります。

02 定型業務が成長を止める

入力・照合・問い合わせ対応に人の時間が取られ、売上を生む業務に手が回りません。

03 人に頼らない仕組みが競争力に

同じ人数でより多くの業務をこなせる企業が、採用難の時代に成長を続けます。

出典：リクルートワークス研究所「未来予測2040」（2023年）

01 AI活用は「試す」段階から「任せる」段階へ

国内企業の生成AI活用は急速に広がり、次の主役として「自律的に業務を実行するAIエージェント」が台頭しています。

国内企業の生成AI活用方針

49.7%



68.9%

「積極的に活用」「領域を限定して活用」と回答した企業の割合（2024年度→2025年度調査）

出典：総務省『令和8年版 情報通信白書』

国内AIプラットフォーム市場

3,083億円



約2.4兆円

2025年→2030年の予測。AIエージェントの普及が市場拡大を後押しすると見込まれています

出典：IDC Japan（2026年3月）

AIエージェント搭載ソフト

1%未満



33%

企業向けソフトウェアのうち、AIエージェント機能を含むものの割合（2024年→2028年予測）

出典：Gartner

Gartnerは2028年までに、日常業務の意思決定の15%以上がAIエージェントによって自律的に行われると予測しています。導入の差が、そのまま生産性の差になる時代が始まっています。

01

よくある間違い：生成AIを「チャットだけ」で使っている

貴社に当てはまるものはありますか？

☐

生成AIの使い方が「社員が個別にチャットで質問する」だけになっている

☐

AIの回答を、人がコピー＆ペーストして別のシステムに入力している

☐

使う人・使わない人の差が大きく、成果が個人のスキル次第になっている

☐

「ツールを導入したこと」がゴールになり、削減できた時間を測っていない

☐

会議の後処理・問い合わせ・データ入力などは、結局すべて人が行っている

このままでは

チャット活用で変わるのは「作業の一部」
だけ

人

質問を考えて入力

AI

回答を作成

人

コピーして別システムに入力

人

確認して送信・共有

業務の流れは人が回したまま。AIに業務を任せた企業
との生産性の差は、開く一方です。

1つでも当てはまれば、AIエージェントに「業務そのもの」を任せることで、大きく改善できる余地があります。

01 「UI is Dead」：人が画面を操作する時代の終わり

「SaaS is Dead」から派生した考え方。AIがソフトウェアを直接操作し、人のための画面の価値が下がっていきます。

これまで：人が画面を操作する

人

クリック・入力・転記

画面（UI）

人のために設計

SaaS・業務システム

ID（人数）で課金

データ



これから：AIエージェントが直接操作する

人

指示・承認だけ

AIエージェント

業務を判断・実行

画面（UI）

介さない

API・MCPで直接連携

システムを横断して操作

SaaS・業務システム／データ

価値は「画面」から「実行」へ

使いやすい画面より、業務を終わらせる仕組みが価値の中心になります。

料金は「人数」から「成果」へ

ID課金のSaaSから、処理件数・成果に応じたサービスへ移っていきます。

人の役割は「操作」から「判断」へ

人は指示と承認に集中する。これがAI社員モデルの考え方です。

参考：Jakob Nielsen「Hello AI Agents: Goodbye UI Design」（2025年2月）ほか。※ すべての画面がなくなるわけではなく、人が判断・承認するための画面は残るという見方もあります。

01 AIエージェントは「答えるAI」から「仕事を終わらせるAI」へ

これまでの生成AI（チャット型）

作業の補助

- 人が質問し、AIが答える
- 答えを使って、人が作業する
- 使う人のスキルで成果が変わる



AIエージェント（AI社員）

作業の代行

- 目標を受けて、AIが手順を考える
- システムを操作し、業務を完了まで実行
- ルールと権限の範囲で、安定して動く

AIエージェント導入の意義

01

人手不足への構造的な対応

採用に頼らず、増え続ける業務量をAI社員が吸収します。

02

スピードと品質の均一化

24時間・同じ基準で処理し、担当者による品質のばらつきをなくします。

03

人を本質的な業務へ

意思決定・顧客との関係づくり・企画に、人の時間を振り向けます。

02 定型作業はAIに、判断と創造は人に

貴社の[対象課題]は、「人が判断しなくてもよい定型作業に、人の時間が使われている」構造から生じています。

01

柔軟な導入形態

1業務・AI社員1体（16万円～）から「AI社員」の組織的配置まで、課題と予算に合わせて選べます。

02

自社で実践済みのモデル

提案元のCS Technologies自身がAI社員による組織運営を実践。運用の中で得た知見をそのままご提供します。

03

堅牢なセキュリティ

データの非学習・隔離、最小権限、Human-in-the-loop、全操作ログの監査という4層の安全設計を標準装備します。

期待される効果（モデルケース試算／前提条件は次ページ。Phase 1 で貴社の実数に置き換えて確定）

約65% 削減

対象3業務の処理工数

4時間 → 1分以内

問い合わせの初回応答時間

年2,280時間 創出

約1.2人分の時間を企画・改善へ

02 効果試算：3業務で月190時間の削減を見込みます

パターンAの代表的な3業務を自動化した場合のモデルケース試算です。

対象業務	現状（前提）	自動化率	削減時間
請求データ照合・入力	月300件 × 10分 = 月50時間	80%	月40時間
問い合わせ一次受け	月1,500件 × 8分 = 月200時間	60%	月120時間
定型報告書の作成	週5本 × 2時間 = 月約43時間	70%	月30時間
合計	月約293時間	約65%	月190時間

約65%

対象3業務の処理工数を削減

年2,280時間

約1.2人分の業務時間を創出

年 約680万円

人件費換算の削減効果

前提条件

- 従業員100～300名規模の企業を想定したモデルケース
- 件数・所要時間は、同規模企業で一般的な水準を置いた仮定値
- 自動化率は、人への引き戻し・確認作業を差し引いた想定値
- 問い合わせ初回応答は、現状平均4時間（折り返し対応）→ AIの即時応答
- 人件費は時給3,000円（社会保険料等込み）、月160時間＝1人分で換算
- AI利用料・開発費は含まない（Phase 1で投資回収期間とあわせて算出）

課題と予算に合わせて、2つの導入形態から選べます

AIエージェント導入は「全部を一度に変える」必要はありません。単独でも、組み合わせてもご導入いただけます。

PATTERN A

ピンポイント自動化

ボトルネックになっている単一の業務・プロセスだけを、AIエージェントで完全自動化します。

こんな企業様に適しています

- まずは小さく始めて、効果を数字で確かめたい
- 「この業務さえなくなれば」という明確なボトルネックがある
- 限られた予算・期間で早期に投資回収したい

期間目安 1.5～3ヶ月 | 初期投資 小



段階的に
拡張

PATTERN B

「AI社員」の配置

役割を持つAIエージェントを組織の一員として配置し、複数領域の業務を自律的に実行させます。

こんな企業様に適しています

- 複数部門で同時に人手不足・業務過多が起きている
- 人員を増やさずに事業規模を拡大したい
- AI活用を経営・組織の仕組みとして定着させたい

期間目安 4～8ヶ月（段階導入） | 初期投資 中～大

パターンA：高工数の単一業務を完全自動化

ボトルネックになっている1つの業務だけを切り出し、AIエージェントが最初から最後まで処理します。

対象業務

現状の課題

AIエージェントによる自動化

毎月の請求データ
照合・入力

複数の帳票・システム間の突合に、毎月数十時間がかかっている



請求書・入金データを読み取り、照合・差異検出・会計システムへの登録まで自動実行。差異のみ担当者へ通知

電話／メール
問い合わせの一次受け

問い合わせ対応のたびに本来業務が中断される



内容を理解して分類・回答。必要に応じて担当部署へ要約付きで引き継ぎ

特定形式の
報告書作成

週次・月次レポートの集計と体裁調整に工数がかかる



データ取得→集計→所定フォーマットでの文書生成→関係者への配信までを自動化

03 パターンB：AIを「社員」として組織に配置

単なるツール導入ではなく、役割・権限・報告ラインを持つ組織の一員としてAIを位置づけます。

観点	人間の社員	AI社員
役割定義	職務記述書	エージェントごとの担当業務・判断ルール
権限	役職・部署に応じた権限	業務に必要な最小限のシステム権限
報告・承認	上長への報告・稟議	人への承認依頼・例外時のエスカレーション
評価	目標・成果	処理件数・正答率・処理時間などのKPI

こんな企業様に適しています

- 1 複数部門で同時に人手不足・業務過多が起きている
- 2 人員を増やさずに事業規模を拡大したい
- 3 AI活用を一過性の施策ではなく、経営・組織の仕組みとして定着させたい

03 パターンAから始め、パターンBへ広げる進め方を推奨します

項目	パターンA : ピンポイント自動化	パターンB : AI社員の配置
対象範囲	単一業務・単一プロセス	複数業務・複数部門
導入期間の目安	約 1.5～3 ヶ月	約 4～8 ヶ月（段階導入）
初期投資	小	中～大
効果の出方	対象業務で早く、はっきり	組織全体で大きく、積み上がる
推奨ケース	まず効果を検証したい	全社的な生産性改革を進めたい

推奨

パターンAで成功体験と運用ノウハウをつくり、その基盤を活かしてパターンBへ段階的に広げます。

Aで構築したセキュリティ基盤・ログ基盤・システム連携はそのままBに引き継げるため、二重投資になりません。

CS Technologies自身が「AI社員組織」で運営しています

複数の専門AIエージェントが連携し、人は意思決定とクリエイティブな業務に集中しています。



01

AI司令塔

主な担当業務

人からの指示を解釈し、担当AI社員へ振り分け、進行を管理

人との役割分担

人は目的・KGIを示し、要所で承認する

02

CSエージェント

主な担当業務

Web・LINE・電話での応対、リアルタイム予約・受付を自動完結

人との役割分担

判断が難しい案件・クレームは人へ引き継ぐ

03

ナレッジ・社内対応

主な担当業務

社内ナレッジの即時要約・検索、社内問い合わせ対応、報告書・資料の自動生成

人との役割分担

人は内容の最終確認と意思決定に集中する

04

業務実行

主な担当業務

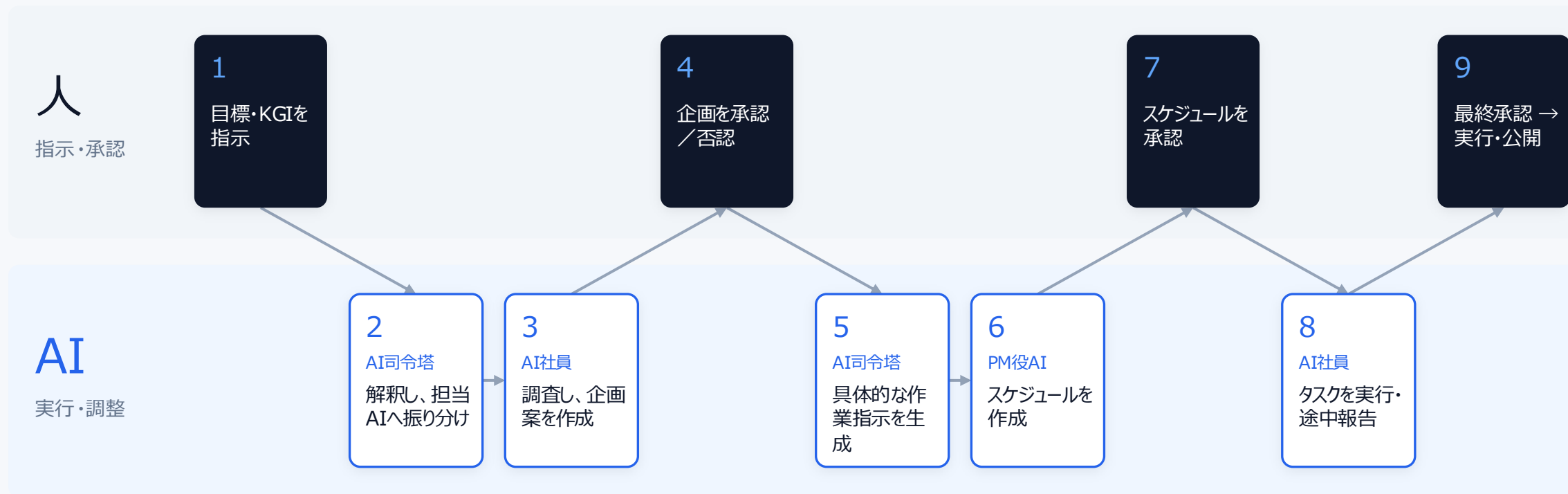
各種SaaS・基幹システムを横断し、申請・登録・更新・連携を自動実行

人との役割分担

未許可の操作・例外は人の承認を経て実行する

04 「AIが動き、人が要所で判断する」連携フロー

CS Technologiesでは、全業務でこの流れを統一しています。



人が関わるのは「指示」と3回の「承認」だけ。方向性・計画・最終品質という要所を人が握り、それ以外の実行はAI社員が担います。

連携の具体例①：顧客からの予約変更依頼

1

CSIエージェント

LINEで変更依頼を受け付け、空き状況を確認して新しい日時を提示

2

業務実行エージェント

顧客が確定すると、予約システム・顧客管理システムを同時に更新

3

ナレッジ・社内対応

担当者向けに変更内容を要約して共有し、日次レポートに反映

4

人へ引き渡し

規定外のケース（キャンセル料の免除依頼など）は自動で担当者へ戻し、判断を仰ぐ

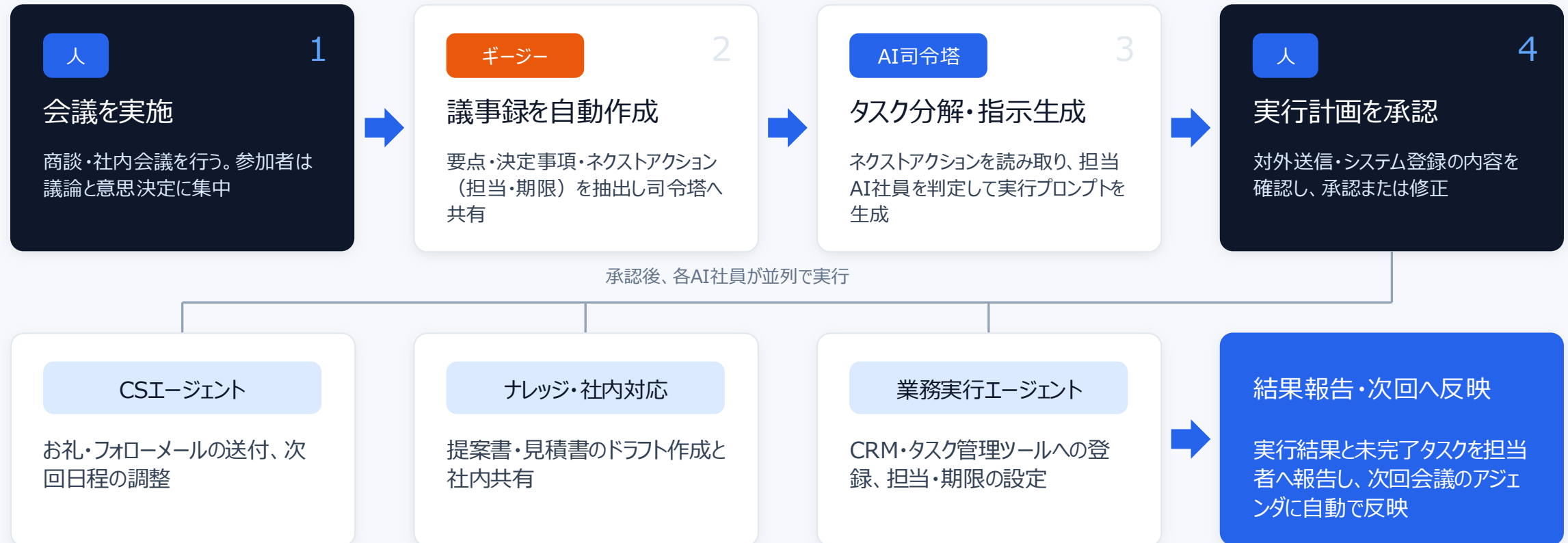
このモデルが示すこと

複数の専門AIエージェントが連携して「AI社員組織」を構成することで、人間は意思決定とクリエイティブな業務に集中できます。

CS Technologiesはこのモデルを自社で運用しながら改善を続けています。その設計思想・運用ノウハウ・失敗から得た知見を、貴社の導入にそのまま活かします。

連携の具体例②：会議のネクストアクションを自動実行

AI議事録「ギージー」と連携し、会議で決まったことが会議の直後から動き出します。



会議が終わった時点で、ネクストアクションの実行が始まっている状態をつくります。

4層の安全設計を、標準仕様として組み込みます

AI導入で最も多いご懸念は「機密情報は守られるのか」「AIが勝手に誤った操作をしないか」です。

01

データの非学習・ 隔離環境

解消する懸念

「社内データ・個人情報が
外部に流出・再利用されな
いか」

対策

外部AIモデルの再学習に一
切使用しない基盤

02

権限分離と アクセス制御

解消する懸念

「見てはいけない情報を、AI
経由で見られないか」

対策

役職・部署に応じた最小権限
の設定

03

判断と実行の分離 (Human-in-the- loop)

解消する懸念

「AIが誤った判断で、勝手に
実行しないか」

対策

不確実な判断・未許可操作
は自動で人へ引き戻し

04

全操作ログの 可視化・監査性

解消する懸念

「何が起きたかを、後から追
えるか」

対策

対話・判断・実行結果をすべ
て記録し監査可能に

データを守り、見えてよい範囲だけをAIに許可します

データの保護と再学習防止

- ✓ **非学習の保証**
入力・処理された社内データや個人情報は、外部AIモデルの再学習に一切使用されない契約・設定の基盤を採用
- ✓ **隔離環境**
他社データと論理的に分離された環境で処理。要件に応じて国内リージョン・貴社専用環境にも対応
- ✓ **暗号化**
データの送受信時・保存時ともに暗号化
- ✓ **データ最小化**
業務に不要な個人情報は、AIに渡す前にマスキング・除外

権限分離とアクセス制御（最小権限の原則）

- ✓ **役職・部署別の権限設定**
社員の役職・部署に応じて、閲覧・実行できる範囲を個別に設定
- ✓ **AIにも最小権限**
AIエージェント自身にも、担当業務に必要な最小限のシステム権限のみを付与
- ✓ **権限を超えた参照を遮断**
利用者の権限を超える情報は、AIを経由しても参照できない仕組み

05 判断と実行を分離し、例外は人へ引き戻します

AIは事前に定義されたルールと権限の範囲内でのみ業務を実行します（Human-in-the-loop）。

状況

AIの動作

ルール内・権限内の定型処理



自動で実行

結果をログに記録

判断の確信度が低いケース



人へ引き戻し

判断材料を添えて担当者へ確認依頼

未許可の操作・規定外の依頼



実行せず停止

担当者へエスカレーション

重要な操作（支払・契約・外部送信など）



人の承認が必須

承認フローを経てから実行

「AIに任せる範囲」と「人が判断する範囲」を導入前に明確に定義し、運用状況を見ながら段階的に広がっていきます。

すべての操作を記録し、運用とコストを見える化します

01 全操作ログの記録

対話内容、AIの判断根拠、システムへの実行結果をすべて記録し、常に監査可能な状態を保持

02 追跡性

「いつ・誰の依頼で・どのAIが・何を判断し・何を実行したか」を後から追跡

03 ダッシュボードで可視化

処理件数・自動化率・引き戻し件数・処理時間・AI利用コストを一覧で確認

04 継続的な品質管理

ログを分析し、誤判断の傾向や改善点を定期的にレビュー

運用ダッシュボード（イメージ）

月次で推移を表示し、改善サイクルに活用

件

処理件数

%

自動化率

件

人への引き戻し

分

平均処理時間

¥

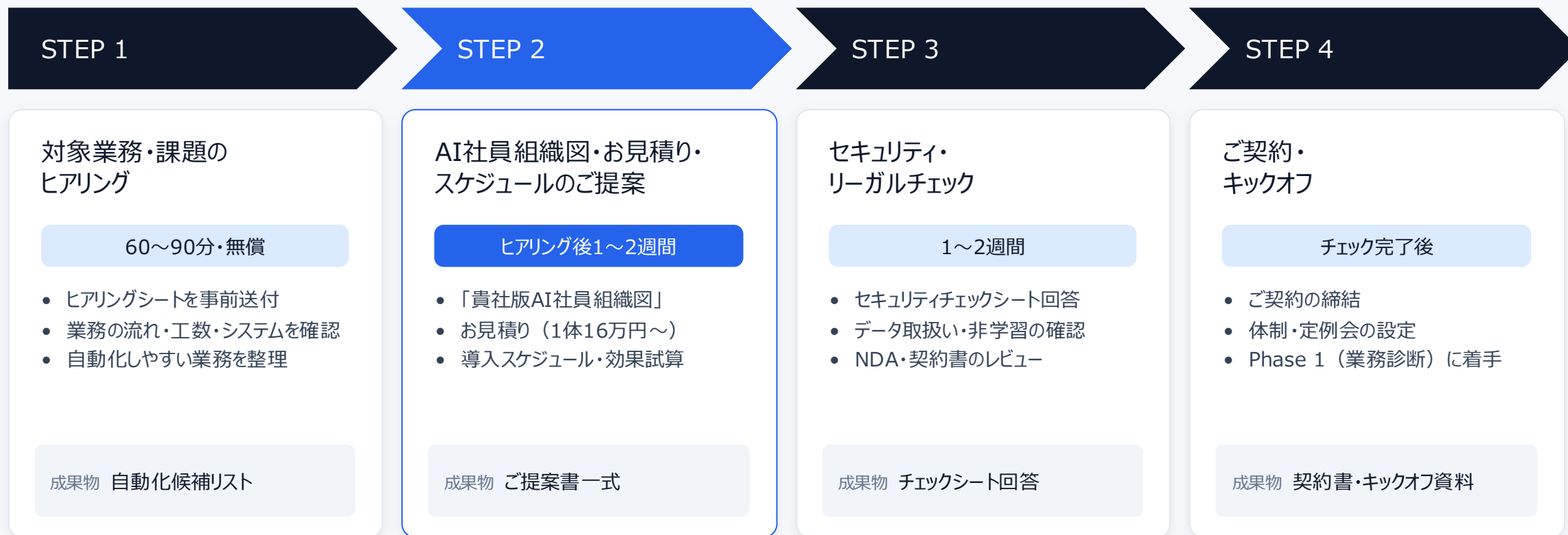
AI利用コスト

件

誤判断レビュー

ご提案からご契約までの流れ

ヒアリングからご契約まで、標準化されたプロセスで迷わず進められます。



ヒアリングからご契約まで、最短3～4週間。セキュリティ・法務のご確認に必要な資料は、標準でご用意しています。

ご提案時にお渡しする「貴社版AI社員組織図」

貴社の組織にAI社員を配置すると、どのような体制になるのかを具体的にご提示します。

サンプル（イメージ）



ご提案書に含まれるもの

- ✓ 貴社版AI社員組織図
- ✓ 各AI社員の役割・権限・承認フロー
- ✓ 効果試算（削減時間・金額）
- ✓ お見積り（初期・月額）
- ✓ 導入スケジュール

導入後の体制を事前に見られるため、社内のご説明・稟議にもそのままお使いいただけます。

業務診断とPOCで確かめてから、本番へ進みます



06 導入スケジュールのイメージ

パターンAは約2.5ヶ月、パターンBは段階導入で約5.5ヶ月で全体稼働を見込みます。



※ 各フェーズの終わりに貴社のご確認・ご承認（5営業日以内）を含みます。期間はPhase 1の業務診断後に確定します。

AIエージェント開発は、小さく安く始められます

大規模なシステム開発のように、最初から大きな投資をする必要はありません。

	従来のシステム開発（一般的なイメージ）	CS TechnologiesのAI社員
初期費用	数百万～数千万円	1体 16万円～
稼働までの期間	半年～1年	1体なら最短2～4週間
進め方	要件をすべて決めてから全面開発	1業務から始め、効果を見て拡張
運用開始後	仕様変更のたびに追加開発	運用しながら判断ルールを改善

※ 従来のシステム開発の費用・期間は、業務システムを個別に開発する場合の一般的な目安です。

なぜ低価格で提供できるのか

01 自社運用の「型」を再利用

CS Technologies自身のAI社員組織で使っている設計・部品を活用し、ゼロから作りません。

02 1体 = 1業務の小さな単位

必要な役割だけを開発するため、使わない機能にお金をかけません。

03 最新の生成AIを活用

従来は個別開発が必要だった判断・文章作成を、高性能なAIモデルで短期間に実装します。

06 まずは1体から：スモールスタートプラン

「いきなり大きな投資はできない」企業様向けに、1業務・AI社員1体から始められるプランをご用意しています。

STEP 0

ミニ業務診断

無償

- 60～90分のヒアリング
- 自動化しやすい業務を3つご提案
- 1体で始める場合の概算と効果をご提示



STEP 1

AI社員1体で開始

16万円～

- 効果が出やすい1業務に絞って開発
- 2～4週間で稼働
- 人への引き渡し・操作ログは標準搭載



STEP 2

効果を見て拡張

1体 16万円～

- 稼働データで効果を確認
- 2体目以降を追加し、AI社員組織へ
- 必要に応じて業務診断・POCで全体設計

例：問い合わせ一次受けをAI社員1体で自動化した場合

月120時間

削減（月約36万円相当）

約半月分

初期費用16万円～の回収目安

効果試算（P.9）の前提（月1,500件×8分、自動化率60%、時給3,000円）で算出。月額費用は含みません。スモールスタートプランは、既存システムとの連携が不要または簡易な1業務が対象です。

06 お見積り（標準プラン：パターンA・B）

AI社員の開発費は1体16万円～。業務診断とPOCで効果を確認してから本番開発に進みます。

パターンA：3業務・AI社員3体		
項目	内訳	金額（税別）
Phase 1 業務診断	一式	30万円～
Phase 2 POC・詳細設計	一式	50万円～
Phase 3 AI社員の開発・導入	16万円～ × 3体	48万円～
初期費用 合計		128万円～
月額費用	保守・AI利用料	別途お見積り

パターンB：複数部門・AI社員8体		
項目	内訳	金額（税別）
Phase 1 業務診断	一式	50万円～
Phase 2 POC・詳細設計	一式	80万円～
Phase 3 AI社員の開発・導入	16万円～ × 8体	128万円～
初期費用 合計		258万円～
月額費用	保守・AI利用料	別途お見積り

パターンAの初期費用128万円～は、モデルケースの削減効果（月約57万円）の約2.3ヶ月分です。
削減効果は効果試算（P.9）の月190時間×時給3,000円で算出。月額費用は含みません。投資回収期間はPhase 1で月額費用を含めて算出します。

金額・範囲について

- 1 金額はすべて税別。「～」は最低金額で、正式なお見積りはPhase 1の業務診断後にご提示します
- 2 AI社員1体 = 1つの役割・業務範囲を担うAIエージェント（例：問い合わせ一次受け）。判断ルールの複雑さ・処理する書類の種類により変動します
- 3 既存システムとの連携開発（API連携など）は、連携先の数・仕様に応じて別途お見積りします
- 4 専用環境・国内リージョンでの構築など、特別なセキュリティ要件への対応は別途お見積りします

月額費用・進め方について

- 5 月額費用（運用保守・改善、AI利用料〔従量・実費〕、インフラ費）は初期費用に含まず、体数と利用量に応じて別途お見積りします
- 6 POCの結果、本番化を見送る場合は、Phase 3以降の費用は発生しません
- 7 スケジュールは、各フェーズの終わりの貴社のご確認・ご承認が5営業日以内で進む前提です
- 8 貴社には、ヒアリングへのご参加、業務データ・テスト用データのご提供、受け入れテスト担当者のアサイン、各システムのアカウント・API権限の付与をお願いします

07 まとめとネクストアクション

01

柔軟に始められます

AI社員1体（16万円～）から、組織的な導入まで選べます

02

実践に基づいています

CS Technologies自身がAI社員組織を運用し、その知見を活かします

03

安全に使えます

非学習・隔離、最小権限、Human-in-the-loop、全操作ログを標準装備

04

確実に進めます

業務診断とPOCで効果を確認してから本番化し、投資リスクを抑えます

ネクストアクション

1

対象業務・課題のヒアリング（60～90分・無償）

時期：ご提案後2週間以内 | 担当：貴社・当社

2

貴社版AI社員組織図・お見積りのご提案

時期：ヒアリング後1～2週間 | 担当：当社

3

セキュリティ・リーガルチェック

時期：ご提案後1～2週間 | 担当：貴社・当社

4

ご契約・キックオフ（Phase 1 着手）

時期：チェック完了後 | 担当：貴社・当社

NEXT STEP

まずは、弊社のAIEージェントの組織を見てみませんか？

60～90分のヒアリングで、AI社員1体から始められる自動化候補と概算をご提示いたします。

株式会社CS Technologies

<https://cs-technologies.co.jp/>